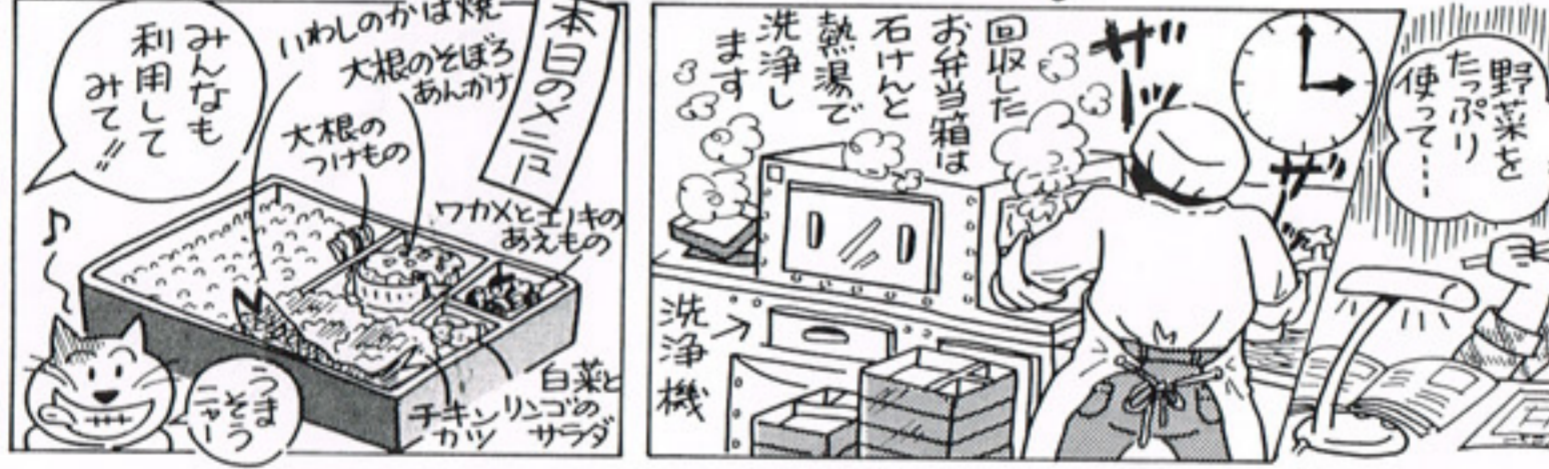
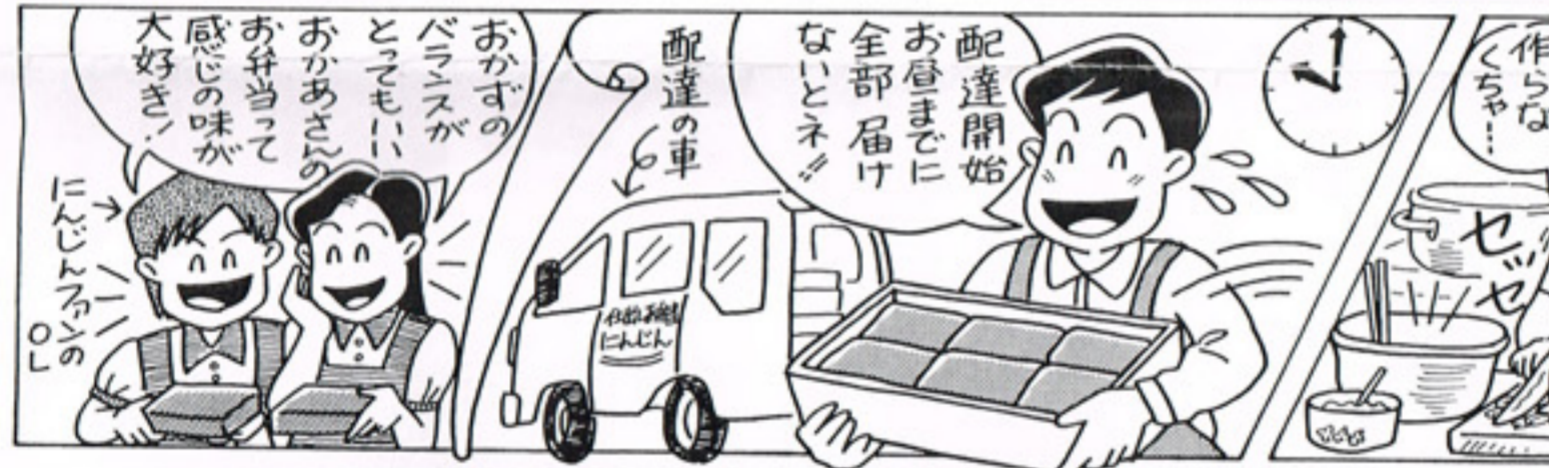


生活クラブストーリー⑨

（企業組合）ワーカーズ・コレクティブ・ミズ・キャロット・六角橋（屋号「にんじん六角橋店」）は一九九〇年に仕出しのお店としてオープンしました。

お母さんの味をとどけます

磯子支部
こすぎともこ
小杉朋子（作・画）



仕出し部門（ミズ・キャロット）は、六角橋の他に、港北、港南、みなみ、すすきの、の計五カ所あります。

お問い合わせは、（企）ミズ・キャロット事務局 TEL045(363)0838へ



五年前、「にんじん」はより民主的な運営をめざして仕出し部門を「ミズ・キャロット」物業部門として再出発。また、スナック、デポは個々の任意団体として新たな一歩を踏み出しました。総事業高も一三〇〇万円（一九八三年度）から仕出し部門だけで二億円（二〇〇〇年度）と大きく成長しています。

「はじめのワーカーズ「にんじん」やれば結果がいつてくる」

一九八二年に日本で初のワーカーズ・コレクティブ「にんじん」が設立。デポ一号店として同年十月にオープンしたすすき野デポの請負業務が最初の仕事でした。一カ月後につつじが丘、霧が丘、登戸にデポが開所。十年後には県下に二八のブランチ（店舗）が事業を展開。ワーカーズも七九人から二六二人に増えました。（最初からスナックあるのは仕出しで出発した所や、デポの業務からスナック、惣菜、仕出しへと事業を広げていった所もあります）

自らが出資し、自らが運営するワーカーズ・コレクティブは、「起業する女たち」としてテレビ、新聞、雑誌に何度も取り上げられました。しかしデポでの消費材の発注、陳列、管理といった日々の仕事をはじめ、地域のまちづくりの拠点になるという目標をかかげるデポの運営は、他に手本もなく手探りの状態が続いたそうです。

スナックを担当したMさん。「無我夢中でしたよ。時は三〇〇円。鍋、釜を家から調達したり、ご飯が足りない!と自宅まで走ったことも。野菜をどう管理しているのかわからなくて、新聞紙にくるんで夜、水をかけに行ったこともあったし、ワーカーズの集まらない日曜日は閉所にした反面、事業高を伸ばすにはどうするか、など、自主運営・自主管理の大変さを感じ知らされた」と話すのはYさん。Iさんは「サンマを十箱ほど仕入れたけど売れない。付け合わせの大根がなかったから。何をどうすれば売れるのか、経営のノウハウは実行!結果!分析!提案を繰り返しながら身につけた」と言います。ワーカーズが増えれば、パート感覚の人、主婦だからと多くを望まない人、もつと働きたい人など、意識のずれはそのまま人間関係に影響を及ぼしました。そこで「どんなささいなことでも話し合うこと」とSさんはミーティングの大切さを力説します。

「何度もやめようと思った」というぎりぎりの状況の中でも歯をくいしばってやってこれたのは「やれば結果がついてくるおもしろさ」、「仲間がいたから」。

組合員活動からひよんなことで前例のない働き方に首をおもしろさも厳しさも共に支え合って今日を迎えています。